

日野市立教育センター一所報

教育センターだより

第20号 平成22年 3月10日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

平成22年2月23日(火)
調査研究事業発表会

開館時間 午前8時30分
～午後5時



大きな活動の成果に感謝

教育センターのこの一年

ICT活用教育推進室長兼統括指導主事
田口 克敏

四季折々に自然のうつろいを美しく紡ぐ七生丘陵に建つ、ここ日野市立教育センターは、開設6年目の今年度も下記のとおり、日野市の教育に対して大きな成果をあげその役割を果たしました。

「**e-ラーニング研究委員会**」(基礎調査研究係)は、今年度「わかば教室」への通室も難しい児童生徒の中で希望者を対象に、在宅のまま「e-ラーニング」システムを活用できる道を整備しました。このシステムは、これまで「わかば教室」に通室する児童生徒を対象に、e-ラーニング担当者からの個別指導をもとに活用してきましたが、その対象がさらに拡大され、より多くの不登校児童生徒の学ぶ機会を保障するための第1歩を印しました。

「**ICT活用研究委員会**」(教育経営係)では、「優れた教育実践の蓄積」を図るためICTを活用した授業実践事例を市内全小中学校の協力のもとにとりまとめ、事例集としてICT活用教育推進室のWebに掲載するよう整備をすすめてきました。また「ICTマーク」審査については、ICT活用研究委員会の協議に基づき平成20年度より始められ、今年度は「校務・授業・セキュリティ」の各部門において前年度より大幅に取得する学校が増えました。

「**理科教育推進研究委員会**」「**ひのっ子教育21開発委員会**」(教科等教育係)では、「理科支援員」の質の向上及び実践的活用の促進、企業とのコラボレーションやひのっ子教育21開発委員による「理科実技研修会」、多摩動物公園とのタイアップによる、「昆虫スキルアップ研修会」の開催や「昆虫ハンドブック」の作成に向けた環境整備の中核として活動を進めました。後者の学校課主管の「ひのっ子教育21」開発委員会では、その研究推進に努め、「理科ねっとわーく」のデジタルコンテンツを活用した授業実践例を研究授業や日野第四小学校における全小理東京大会会場としての研究発表会を通じて公表するとともにその蓄積を図り、日野第七小学校での研究発表会の一部をお借りして今年度の取組のまとめを発表することができ、大変密度の濃い取組を推進したことが今年度の特徴です。

「**郷土教育推進研究委員会**」(ふるさと教育係)は、夏季休業期間を利用して「ふるさと日野」を知るためのフィールドワークを実践(今年度は日野本町・東光寺地区)しました。このことは、地域を素材とした学習活動を展開する上でまたとない学習の機会であり、自然・歴史・産業・交通などの資源豊かな日野市ならではの取組です。

研修部では、各種教員研修の補助をはじめ特に初任者教員をはじめ若手教員に対する授業観察及び助言を行う活動に取り組み、教員のモチベーション向上に寄与するなどの成果をあげ、今後、若手教員に対する支援指導体制の基盤として期待されます。

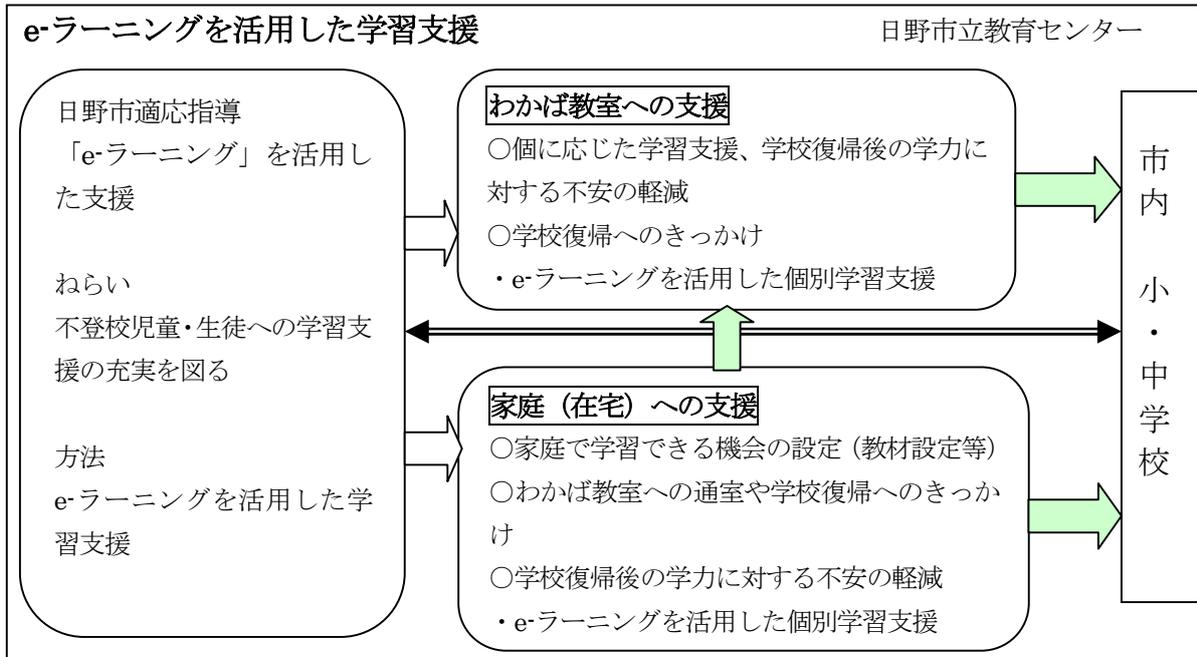
相談部に関しては、子供や家庭をめぐる様々な課題に対して、その心の悩みを解消していく働きとして「**一般教育相談**」の役割は非常に大きく、今年度上半期で1200以上の相談が寄せられ、そのニーズの高まりは顕著です。一方「**学校生活相談係**」(わかば教室)では、不登校や登校しぶりの子供たちに対して、学校復帰を目指しながら学習支援を行っており、粘り強い丁寧な指導を若いスタッフとともに展開してきたことで、継続して通室する子供の数も多くなるなどの「成果」をあげています。

以上のとおり、教育センターの活動は日野市の教育分野の多方面にわたり、その役割は大きなものがあります。今後とも、教育委員会との密接な連携をもとに、より効果的な活動としていくためにも、教育センターと教育委員会が「教育ビジョン」の共有をしっかりと図っていくことが肝要と考えます。さらに、教育センターの「人材」を効果的に活用し、学校現場を立体的に支えていくことを共に目指していきたいと思えます。

不登校児童・生徒の学習支援の仕組みに関する研究

基礎調査研究係

児童・生徒の学習を支援するために「e-ラーニング」を有効活用する方法を研究しています。
 ー登校を支援するために「e-ラーニング」を活用した学習支援を拡大ー



「e-ラーニング研究委員会」（基礎調査研究係）の調査研究では、情報や資料収集等による調査や家庭での e-ラーニング推進上の課題等の調査研究及び課題解決に向けての取り組みを前半は行い、それらを含め、家庭(在宅)での e-ラーニング実施の要件と準備を整えた時点から学習支援の対象を拡大しました。

1 「わかば教室」 e-ラーニング

「わかば教室」では、わかば教室に通室している児童・生徒が e-ラーニングを活用し学習しています。e-ラーニング担当の2名が年間を通し、ひのっ子学習システム（e-ラーニングシステム）を活用し、インタラクティブスタディ教材による個別学習支援をしています。

学習効果

学習時間を設定（学ぶ機会を保障）したことにより、つまづきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学び学力への不安が軽減された児童・生徒や意欲的に学習する児童・生徒が多くなってきました。学習への意欲は学校への復帰のきっかけになっています。

2 家庭（在宅） e-ラーニング

教育センター担当者による家庭（在宅） e-ラーニング支援の方法と内容

基本的には、家庭訪問（児童・生徒・保護者との対面）をして各家庭で主に次の内容を支援します。

- ・各家庭（在宅）からの e-ラーニング実施可能性調査、設定作業
- ・各家庭（在宅）での最初の学習に立会い学習方法等
- ・各家庭（在宅）での学習状況により個別学習相談等

期待される効果

わかば教室への通室や学校復帰へのきっかけや学校復帰後の学力に対する不安軽減が期待されます。

「ICT活用実践事例集」 完成！ Webに掲載！！

ICT活用研究委員会

ICT活用教育推進室のWebサイトに掲載しましたので、ご覧ください。

ICT実践事例集（小学校編）

<Ⅰ. ステップ1（教師が主として活用）>

教科	実践事例報告	主な内容
国語	中村真理子（日野五小）	書画カメラで作品を共有
社会	見米 葉記（日野一小）	昔の地図と地図検索サイトの航空写真で比べる歴史
算数	富川 準子（日野六小）	自作教材の提示 「10より大きい数」
理科	西沢 庸（潤徳小）	理科ねっとわーくで台風の学習
音楽	佐宗 紀子（日野五小）	拡大鍵盤で指使いの練習
音楽	織原 あゆ美（日野一小）	観賞教材の情報提示
図工	久下 ひかる（日野五小）	実物投影機で作業手順を提示
家庭	山下 みよこ（平山小）	細かいところまで見せる大作戦
体育	箱崎 高之（日野六小）	アニメーションから運動のポイントを見つけ
保健	進藤 章子（日野六小）	視覚に訴える保健指導
生活	豊泉 京子（日野六小）	大迫力のビデオ上映

<Ⅱ. ステップ2（児童が主として活用）>

教科	実践事例報告	主な内容
国語	佐々木 厚（日野三小）	スタディノートで音読の自己評価・相互評価
社会	岩井 則義（日野五小）	インターネットで情報収集
算数	木部 美行（南平小）	自作教材で一人一人が図形の操作
算数	橋爪 恭子（平山小）	かかわりあい&モニター大作戦
算数	権野 祐史（日野八小）	インタラクティブスタディで完全習得学習
理科	内田 桃代（日野四小）	観察カードの共有
音楽	仁科 明美（日野八小）	左クリックで私もベーターペン（「クリック練習」）
図工	小塚 忠史（平山小）	デジカメ活用で発想と表現の自由度アップ！
家庭	宮鍋 和子（仲田小）	Web上のバランスごまを操作
体育	中村 貴恵（日野六小）	スポーツミラーで技の振り返り
生活	佐々木由紀子（平山小）	スタディノートで作った作品について感想を交換

<Ⅲ. ステップ3（発展型）>

教科	実践事例報告	主な内容
国語	関口 佳美（日野二小）	デジタルバタフライ・マップで育てる論理的思考力・表現力
社会	佐藤 友美（潤徳小） 立石 順子（日野四小）	スタディノートのインターネット掲示板で学校間の意見交換
算数	石川 育代（平山小）	スタディノートのポスター機能で「分類・整理」
理科	青山 ひとみ（平山小）	スタディノートによるポートフォリオで意見の分類

ICT実践事例集（中学校編）

教科	実践事例報告	主な内容
国語	水巻 英司（大坂上中）	写真を投影しながらスピーチ
国語	中山 昌之（日野四中）	アニメーションでわかる点画のつながり
国語	池本 ユウ子（平山中）	気軽に使えるデジタル教科書
数学	岡本 百代（日野三中）	動点がえがく面積の変化
理科	行富 健一郎（平山中）	板書も生かせる黒板のスクリーン化
理科	秋間 崇（三沢中）	e-黒板を理科ねっとわーくの活用
理科	永島 友和（日野一中）	図書資料とICTの融合したプレゼンテーション
英語	森田 剛（大坂上中）	デジタル Word Flash
英語	竹村 きよみ（日野二中）	導入くん
英語	岩間 康行（日野四中）	音声と映像で学ぶ英語
体育	小島 智史（七生中）	スポーツミラーで自己評価
美術	中島 道理子（日野四中）	ICTを活用した鑑賞と意見交換
技家	宮原 延郎（日野二中）	投影じょうず・切り替えじょうず

1 研究テーマ ～「魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上」～

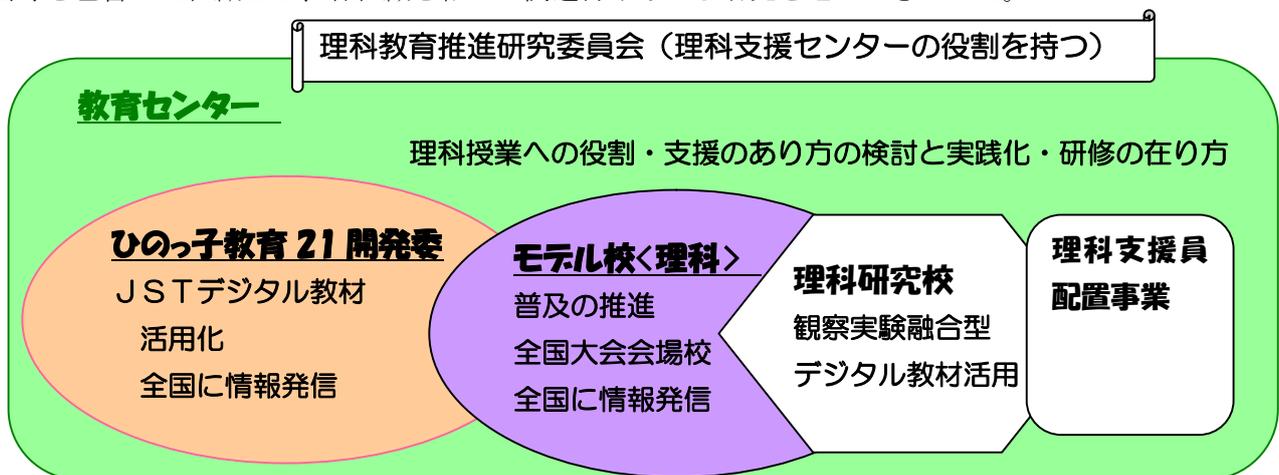
2 教育センターで理科教育研究が必要な理由

- (1) 日野市学校基本構想の教育目標を達成するために理科教育の充実が重点課題のひとつとなっていること。
- (2) 日野市の進めているICT活用教育を理科授業の改善に役立てるため。
- (3) 理科デジタル教材（科学技術振興機構作成した理科コンテンツ）の研究を推進する。
- (4) 国の施策のひとつである理科支援員配置事業の推進により、理科授業の充実を図っていく。
- (5) 教員の理科学習の指導力の向上を目指す研修の実施とそのあり方を検討する。

※これらを総合的に捉え、ひのっ子の理科の学力向上に繋げるため、教育センターとして全体を見通し、具体的な実践を通して実践的に研究を進めてきました。

3 研究の組み立て

下図のように理科教育推進研究委員会に理科支援センターの役割を持たせ、さらにひのっ子教育21開発委員会等を包含した組織とし、各組織を相互に関連付けながら研究を進めてきました。



4 研究実践

- (1) 理科授業支援員の配置事業の推進：支援員配置により、実施校の理科授業の質の向上とともに、教材研究にかかる時間が確保でき、教師実験でなく、子供たちにたくさん実験させることができました。
- (2) ひのっ子教育21開発委員会：別途ひのっ子教育21開発委員会紙面にて報告済み。
- (3) 下記の研修活動を通して理科研修会の実施と、ありかたの検討。
 - ① 理科実技研修会の開催（観察・実験の実技とデジタル教材の研修）
 - ② 富士電機CSR（企業の社会貢献活動）理科実技研修会。多摩動物公園と連携しての昆虫観察研修会

5 研究実践の結果から見えてきた今後の方向

これまでの具体的な実践から、「魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上」を図るためには、指導に当たる教員の研修や授業を支える諸条件の整備が重要であることを改めて把握することが出来た。

- (1) ひのっ子教育21開発研究などで活用研究したデジタル教材をICT活用などと結び付けて理科教育の充実を図ることが効果的であることが明らかになり、今後さらに活用化を進める必要がある。
- (2) 教員の研修の機会の充実ときめ細かな対応。併せて、配置したn支援員へのサポートが必要。
- (3) 「理数教育支援拠点におけるコア・サイエンス・ティーチャー（CST）小学校教員の理科教育における指導力向上事業」の推進

※これらの研修活動を進めるとき、教育センター（＝理科支援センター）の果たす役割は、大きくなっていく。

ひのっ子教育 2 1 開発委員会の研究

ひのっ子教育 2 1 開発委員会

研究テーマ：魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上

～観察・実験融合型デジタル教材の活用を通して～

1 研究の目的

誰でも好きになる魅力ある理科授業のあり方を構築する方策の一つとして、従来の実験・観察に加えてデジタル教材を活用し、より魅力ある理科授業を展開できるよう、理科を教える教師の指導力を向上させると共に、ひのっ子の基礎学力向上を図る。

そのために、開発委員会の研究を通して、日野市の小・中学校での活用化を推進する。今年度は、この研究の二年次にあたります。

2 研究体制

(1)委員会の構成：理科教育の実践研究の経験を有する管理職を中心に各小・中学校から1名以上教諭又は主管が参加し、委員会を構成。

(2)教 科：小学校、中学校共に理科

(3)委員会年間開催回数 14回

3 研究・実践の経過

(1) 授業実践を通して活用研究を進めてきた

昨年に引き続き、さらに活用化を進めるために、学年分科会（小学校3年～6年、中学校）を設け、指導案の作成と、授業実践を通して活用の主旨や様々な活用の方策の研究に努めた。

今年度は小学校、中学校あわせて計10回の授業研究を実施した。



(2)開発委員が各学校のリーダーとなってデジタル教材の活用化を進める取り組み。

開発委員が各校での実践に加え、おすすめコンテンツの紹介や活用状況の調査を通して活用化を進めてきた。

(3)観察実験の実技研修と組み合わせてデジタル教材を活用した研修会を実施。

夏季休業中に教員向けの理科実技研修会を2回開催し、関連したデジタル教材の活用について開発委員が指導に当たり、底辺を広げることに取り組んできた。

4 研究の成果

(1) 理科学習における児童・生徒の関心・意欲の向上、問題意識の高まりなどが報告されている。

(2) 理科を指導する教員全員の「理科ねっとわーく」利用者登録と開発委員による各校で教材の紹介と活用化を図る取り組みの結果、いつでも活用できる環境が整い、すでにいくつもの学校で活用率が100%に達してきている。

(3) 開発委員が実践を深める中で、各校の利用に当たって中心となる教員が育ち始めてきた。

(4) 開発委員が中心になって実践化を進めた結果、いくつもの学校で活用化が進み、観察・実験を基本にした理科授業の中で活用の仕方に深化がみられてきている。

(5) 理科の全国大会の会場校の授業にデジタル教材を活用した授業を公開することができた。

ふるさと教育係

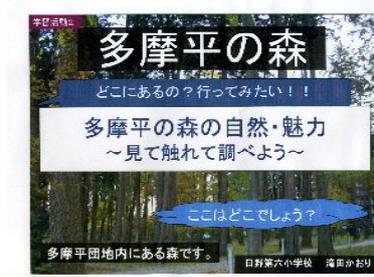
郷土教育推進研究委員会では、日野を誇りに思い、日野に愛着をもつひのっ子の育成のため、本年度は、①地域を知る指導者の育成②新たな郷土教材の発掘と、新しい郷土資料を活用した学習活動 ③郷土教育を推進する視点の拡大の、3点に取り組んできました。それらの中から②について第2号以降にまとめてきた3点を中心にご紹介します。

1 新たな郷土教材の発掘と新しい郷土教材を活用した学習活動を開発しました。

(1) 日野の縄文時代



(2) 多摩平の森の自然・魅力



(3) 駅は郷土学習の改札口



(1) 日野の縄文時代 平成23年度から改定される学習指導要領では、6年生で縄文時代を扱うようになりました。日野市内には縄文遺跡が主に台地の端や、程久保川沿いの丘陵地に多く見られます。この地域の特性を生かし、文化スポーツ課との連携の下「縄文遺跡と遺物」「縄文時代」などの資料を作成しました。さらに、学芸員による「出前いっちょう」制度を活用し、地域で出土した縄文土器や写真を直接見せてもらい、学習する指導計画を作成しました。



(2) 多摩平の森の自然・魅力 「多摩平の森」は、大正11年から「御料林」(宮内省帝室林業試験場)として、実験的に様々な木が植えられていました。日本初の大型団地建設やその改築に当たっても、関係機関、住民、市の行政との綿密な話し合いの下、住みやすく、自然との調和を大切に町作りを進めてきました。そのため、もみやユリノキ、ヒノキ等、珍しい貴重な木々が残され、まとめて植生しています。また洞爺丸遭難の際、自らを犠牲にして若者を救ったストーン牧師ゆかりの地でもあります。



体験学習を通し、子供たちは地域の身近な自然の素晴らしさや人々が努力してきたことに気がつきます。郷土を改めて見直し愛着を深めることとなります。授業後の子供たちの感想です。

「自然を守っていきたい。」「住む人の願いにふれて感動した。」「身近な人に伝えたい。」

(3) 駅は郷土学習の改札口 今年1月に開業120周年を迎えた中央線日野駅から始まる郷土学習の指導事例です。日野駅が現在地に移転した際の記念写真と、明治から大正の日野宿の町の地図を資料として扱い、学習を進めます。資料を基に、「日野駅はどうして移転したんだろう?」「どうして民家風の駅になったんだろう?」「資料の日野小学とは?」等と、自分の課題を見つけます。郷土資料館、市立図書館には日野駅や日野宿に関する資料がたくさんあります。また、こ



れまでに出された郷土資料集にも紹介されています。

2 紹介できなかった新たな指導資料

(1) 女子教育に尽くした秋間為子 (2) 「日野桑園・蚕糸試験場」ゆかりの地と自然体験広場
※紙面の関係で紹介できなかった指導資料・郷土教育を推進する視点の拡大等は、新年度初めに出される指導資料集第5集でご覧下さい。

研 修 部

—教職員研修部—

「日野市教育委員会主催研修会」から

市教委学校課指導主事より研修部が委託を受けた研修会名をお知らせします。

月	日	研 修 会 名	内 容
4	10	学校組織マネジメントⅢ	主幹への期待と日野市の教育（浮須勇人参事）
4	10	初任者研修連絡会	初任者・新規採用者の研修等について
4	14	初任者研修会	開講式・研修概要説明（浮須勇人参事）
4	15	学校組織マネジメントⅠ(校長)	学校評価について（明星大学 森下恭光・鯨井俊彦教授）
4	22	学校組織マネジメントⅡ(副校長)	学校評価について（明星大学 森下恭光・鯨井俊彦教授）
5	14	授業力向上研修	4年次教員対象 自己の授業の問題点の発見
5	19	初任者研修会	市内施設見学 講義と演習（講師 小杉博司校長）
5	28	学校組織マネジメントⅢ	主幹教諭と主任教諭のかかわり
5	29	授業力向上研修Ⅰ	2・3年次教員研修の進め方と考え方
6	2	初任者研修	I C T活用研修
6	16	初任者研修	学級経営と学習指導（講師 矢野 優校長）
7	7	初任者研修	2年次教員による研究授業参観（旭が丘小学校）
7	21	初任者研修	実技研修（救急法） 水泳実技研修
7	22	学校組織マネジメントⅠ(校長)	保護者対応について（講師 立川一中 嶋崎政男校長）
7	22	学校組織マネジメントⅡ(副校長)	保護者対応について（講師 立川一中 嶋崎政男校長）
7	23	日野市夏季教員全体研修会 (財)教育調査研究所 寺崎千秋先生 関西大学 黒上晴夫教授 明星大学 小貫 悟准教授	「新学習指導要領における小・中学校9年間の学び」 「総合的な学習の時間と探求的な学習」 「日野市の特別支援教育」「ひのスタンダード」
7	28	人権教育研修会	国立ハンセン病資料館
7	30	初任者研修	マナー研修（株）インソース・人権教育（吉野美智子先生）
8	20	授業力アップ研修会（2・3年次教員）	自らの授業改善について
8	21	授業力アップ研修会（2・3年次教員）	自らの授業改善について
8	25	英語活動研修会	英語活動の実践事例を学ぶ
9	10	道徳教育研修会・心の教育研修会	公開授業 平山小学校 伊藤 智子主幹教諭
9	15	初任者研修	教育相談について
10	6	初任者研修	授業研究 日野第四中学校 岩間康行教諭
11	10	人権教育理解推進委員会	関係機関との連携（法務局八王子支局 幸野正博民事専門官）
11	10	初任者研修	授業研究 南平小学校 佐島裕亮教諭（講師 中島和夫校長）
12	8	初任者研修	授業研究旭が丘小学校 酒井千穂教諭（講師太田由紀夫校長）
1	19	初任者研修	授業研究 日野第五小学校 吉谷優見教諭（講師垣内成剛校長）
2	9	初任者研修（9日・16日実施）	教育実践発表（講師 古宮キヨ子校長・正留久巳校長）
2	26	学校組織マネジメントⅢ（3年目主幹）	今年度のおまとめ（講師 七生中学校 松本康夫副校長）

この他に研修部3名が初任者50名の授業観察を個々に年間3回担当し市教委に報告しました。

一般教育相談「日野市教育相談室」の活動

一般教育相談係

＜本年度の重点目標＞

- ・ 多くの方々に利用される相談室にし、教育相談の啓発に努める。
- ・ 関連機関との連携を推進し、積極的に要望に応える努力をする。
- ・ 学校や適応指導教室等と連携を図りながら相談を実施する。
- ・ 専門性の向上に努め、質の高い相談を心がける。
- ・ 相談環境の充実に努める。

＜本年度の相談概況＞（21年度は1月末現在の数字。「面接電話等」は電話で親・子と相談、もしくは関連機関と、所内または出張して相談したケース。）

	子面接	親面接	面接電話等	心の電話	電話相談	合計
20年度	627	895	524	36	183	2265
21年度	573	878	474	31	156	2112

件数は昨年度並みですが、やはり1日の対応件数は多く余裕がない状態でした。相談内容は、例年どおり不登校や軽度発達障害への対応が多数を占めています。

＜重点的に取り組んできたこと＞

1 相談活動の充実に努めるために

- (1) **来室相談のニーズに応じる工夫** 相談者が多くすぐに相談に応じられない状況がある中、緊急を要するケースの場合にはじっくりと様子を聞き、詳しい状況を把握した上で他機関の紹介を行い相談者の不安を和らげるようにしてきました。また外部機関紹介などを迅速・的確に行えるよう資料の整備・活用を重点的に行いました。さらに待機者には電話で月に1度子どもの様子を聞き相談時期の見通しなどを伝えてきました。
- (2) **相談者の声を生かした相談（相談者へのアンケート）** 本年度の新たな取り組みとして1～3月にかけてアンケートを実施してきました。相談者に「相談室を知った経緯、電話での申し込み時の対応、面接でいい気づきや視点を得ることができたか、改善しているか、施設・設備の印象」など7点にわたって質問しました。終了後、担当の相談員はそのアンケートの回答をもとに相談室として学ぶことを聞き取ったり相談の到達状況について確かめ合ったりしてきました。今後は年度末に集計し来年度に向けて改善の糸口を得る機会としていく予定です。
- (3) **「わかば」（適応指導教室）との連携** 本年度「わかば」教室は都教育相談センターの重点支援指定を受け不登校児童生徒の対応について助言支援をいただきました。相談室ではわかばのカウンセラーとともに共通のケースについてカンファレンスを行い助言をいただきました。センター内の同一施設内の利便性を生かし、その後も日常的な相談の情報連携が進んでいます。
- (4) **地域機関との連携** 相談者によっては、子ども家庭支援センターなど地域行政機関の日常的な支えが必要な場合があります。その際、相談員は地域の支援組織や支援者を事前に知り活用できる準備をしておく必要があります。本年度は高幡にある「子ども家庭支援センター」を訪問し、施設見学の後支援状況や相談室との連携について話し合いました。
- (5) **相談室文書の整理と保管** 個人情報保護や各種資料活用のために全面的整備を行いました。

2 相談室環境の整備 相談は快適な環境においてこそより効果を高めることができます。そのために、本年度は相談室の環境や設備の改善を行いました。

プレイルームの床カーペットの張り替え 待合室の壁面の張り替え 廊下壁面の塗装 面接室、プレイルームのエアコンの設置 プレイルームの遊具の整備 他

学校生活相談「わかば教室」の活動

—学校生活相談係・わかば教室—

学校生活相談係(わかば教室)は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題や通室する児童・生徒に対しての相談・指導・援助、及び、不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。

「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

1 教育相談活動

カウンセラーが、通室する個々の子どもと定期的に継続して面接を行いました。随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子どもが精神的に安定し、目標を持った生活をするようになりました。保護者との密な連絡・相談、家庭のゆとりある対応がよい結果を生んでいます。通室者の増加に伴い面接の重要性がますます増えています。今後も工夫改善をしていきます。

2 教育活動

(1) 楽しい体験活動(わかばタイム・行事)



「わかば教室」では、年間を通して幅広い体験活動を行なっています。

6月に訪問した保育園では、「ありがとう」「また来てね」と感謝されました。体験活動では、参加人数が多く、笑顔・活気、時には涙溢れるがありました。活動参加から学習へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。

(2) 丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子どもの状況を掴み個々の理解のもとに、よい人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子どもの多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日朝・昼休みは、皆でスポーツを楽しんでいます。

(3) 個に応じた学習指導(5教科を中心とした学習タイム)

学年や学習進度、子どもの思い等を考慮して個別時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。楽しそうにパソコンも使い、自分のペースで学習ができ、意欲的に学習する姿も見られました。

3 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。子どもの活動には、地域の方やボランティアの学生等の協力が大きかったです。一般教育相談とも日常的に連携し協力しています。



今年度は通室者が減少しました。見学・相談に来た児童・生徒は多数いましたが、通室できずにいる子が増えています。不登校の状況が深刻化しているとも考えられます。今後も子ども理解に努め、子どもたちが目標を持って向上していけるよう援助するとともに、学校に戻れる子どもが一人でも多くなるように学校や関係機関とも一層の連携・協力を強めていきたいと思ひます。